



津島市民病院
緩和ケア内科
部長
高塚直能

地域に広げていきたい緩和ケア

緩和ケアとは？

その名のとおり、がんなどに伴う苦痛症状の緩和を目的としたケアのことです。患者さんの抱える苦痛には、痛みなどの身体的な苦痛だけではなく、抑うつなどの精神的な苦痛や療養環境の不備などの社会的な苦痛なども含まれます。そのため、医師（精神科医師も含む）、看護師、薬剤師、リハビリ療法士、栄養士、ケースワーカーなど様々な職種のスタッフが協力して当たります。

緩和ケアの対象者は？

「苦痛をかかえるすべての患者さんです」と言いたいところですが、今のところ、苦痛症状を抱えるがんの患者さんが主体です。緩和ケアは、がんと診断された時から始まると言われています。がん治療を担当される科においてもがんと闘う治療を進めると同時に、早期から緩和ケアを受けることが出来るようになってきています。当科で対応するケースは、苦痛の緩和に難渋している患者さんが多いですが、可能な限り症状緩和を図り、がんを抱えながらも患者さんが望まれる生活を送れるようサポートしていきます。

緩和ケア病棟ってどんなところ？

症状緩和を目的にご利用いただく入院施設です。今の制度では、緩和ケア病棟をご利用いただける方は症状緩和を必要とするがんの患者さんにほぼ限られています。当院の緩和ケア病棟はすべて個室になっており、入院中は、化学療法などがんに対する積極的な治療は行えませんが、症状緩和につながる治療は積極的に進め、患者さんの生活を支えています。

緩和ケア病棟やホスピスと聞くと、がんの末期で最期を迎えるところと思われる方もみえるかもしれませんが。しかしながら、最近では、症状緩和を目的とした短期入院やご家庭での介護者に休息をとっていただくことを目的としたレスパイト入院も増えています。また、可能な限り自宅で過ごしたいという患者さんの意向にも応えるべく、ご自宅への退院も積極的に進めています。そのため、地域の訪問診療や訪問看護を担う施設などとの連携を深め、地域全体で緩和ケア（地域包括緩和ケア）を提供できるよう体制づくりを進めているところ です。

緩和ケア病棟のご利用にあたりましては、現在、がん治療を担当されている主治医の先生を通して当科に紹介受診いただき、利用申し込みをしていただく必要があります。ある程度時間もかかりますので、余裕をもって申し込まれることをお勧めします。

がんの痛みに麻薬を使うと聞いたけど、大丈夫なの？

多くの場合、がんに伴って痛みが生じます。モルヒネなどの麻薬系鎮痛薬は強い鎮痛作用を持っており、がんによる強い痛みには必ずと言っていいほど使われます。麻薬と聞くと依存症を心配されるかもしれませんが、近年では安全な投与方法も確立され、慢性的な痛みがある方が使用する限りにおいては、依存性を生じることなく、うまく痛みを抑えられることがわかっています。実際、麻薬の使用に躊躇されていた方の多くが、こんなに効くならもっと早く使えばよかったと言われます。ただし、嘔気・嘔吐や便秘、傾眠などの副作用が出ることはありますので、それぞれに対応しつつ、投与を進めていくことになります。

がんを含めどんな病気でも、それが消えてなくなることが理想ですが、現状それが叶わない病気があることも事実です。その際、いかに病気と付き合うかということも考えなければなりません。当科では、症状緩和を通して、皆さんによりよく生きていただけるよう、内容を充実させていきたいと思っております。今後とも宜しくお願いいたします。

